

44・1月

1. 20

No. 102

町の人口

44.1.1 現在	15,034人
男	7,423人
女	7,611人
世帯数	3,327世帯
(面積)	31.09Km ²

印刷／望月印刷所 T800304

中川国兵町長

新春に町政構想語る

中川国兵町長は、一月一日の新聞折込で町民皆さんに新年のあいさつを述べるとともに、町政の概要と今後の抱負を明らかにし、わたくしたちの協力を求めましたが、さらに、次のように町政の構想を語っています。

第一に

青少年の人材育成を

町将来の発展を願うとき、第一に掲げなければならないのは、次代を担当することになる現在の青少年をいかに人材育成するかということであり、わたくしは、この課題を町政施策上の最大ポイントとして、その目的達成のため、今後あらゆる努力を傾注していきます。

青少年の皆さんの要望や意見を積極的に町政に採用し、社会教育をより充実させて健全な青少年グループ活動などにも強力な助成の方途を開こうと思います。

「青少年育成」にはわたくしたちいわゆる大人の正しい生活姿勢というものが必要欠くべからざるもので、昨年十一月三日に制定し

た「富士川町民憲章」も、このような観点も含め、町民生活の信条を打ち出したわけです。

「観光富士川」の

開発を策定

東名高速道路の全線開通により富士川サービスエリアのバスストップ利用が始まりますので、その乗降客に対する観光誘致を策定する必要が生じてきています。

このため、関連道路網の整備をはかり、観光コース、施設を充実しつつ、これを中心とした全町的な「観光富士川」開発を推進しようと思います。

両小学校、両幼稚園の

校、園庭整備実施

昨年までに建設を完了した第一



写真 町長、役場前、一小校庭で子どもたちを見守りつつ……

第二両小学校、第一、第二両幼稚園の内部設備の充実と校庭、園庭の機能を最大限に発揮できるよう努力します。

中学校舎改築

慎重に企画

懸案の中学校舎改築については将来を見通した構想のもと、慎重に企画を進めています。

わたくしたちの子弟にとって、もっとも大切な少年後期の基礎教育の場となるわけで、知識吸収、体力養成、精神力鍛練の教育殿堂としてふさわしい新施設を実現させたい。

公害を防ぎ

うるおいある町を

交通災害防止をいっそう強力に推進し、産業開発に伴って生ずる公害から町を、町民を守り、春三月に予定される町の花、町の木の新緑を一つの機会に、自然美豊かなうるおいのある町をつくりあげていきたいと考えています。

岩淵駅舎改築

建設促進に拍車

昨年、十二月定例会で議決された岩淵駅舎の改築について、町民の宿願を果たすべく、建設の促進に拍車をかけます。

十二月 定例会傍聴席

町議会十二月定例会は13・14日の二日を会期と定め、午前九時から会議室で開催されました。

一般質問および一般会計、特別会計の決算認定のほか、助役の任期満了に伴う後任者の選任同意、岩淵駅の改築工事の施行、その他条例の改廃等十四議案が中川町長から提案され、13日午後五時、会期一日を残して、いずれも原案どおり可決されました。

午前九時、渡辺議長が開会を宣言、坪内議員病欠出席、養議員の所用欠席のほか全員出席で議事が成立したことを宣告。続いて、高岡、古川両議員を議事録署名人に指名後、諸般の報告をしました。

三 議 員 か ら

一 般 質 問

議会は、日程にしたがい一般質問にはいり、斎藤（昌）議員が「役場人事交流」太田（義）議員が「教育・産業行政」芦川議員が「農協問題と起工式等の経費節減」についてそれぞれ質問、それに対し、中川町長は次のように回答しました。

太田（義）議員 教育・産業行政で

太田（義）議員が、①教員の宿日直問題②教育委員会事務局の職員数不足③山砂利採取税について質問。

中川町長「宿日直問題については、三町の教育長が協議して検討中であるが、年末年始の休暇に対しては用務員を代行させるかどうか、近く結論を出したい。
教育事務局の充実については、斎藤議員の質問とも関連するので適材を得て新年度から増員を考える。

山砂利問題については、現在、県に申達してある採取申請書は、新様式にするため、業者に返戻してある。山砂利採取税については現在、新設した町の状況を調査しているが、案ができたら議会の協議会で検討願いたい」

斎藤（昌）議員 役場人事交流について

斎藤（昌）議員が、役場の人事交流について質問。

中川町長「就任以来四カ年半、この間、学校建設、都市計画、水道拡張等、非常に重要な問題に取組んでおり、現段階では、ベテラン課長に期待するところ大であるが、本年中には大きな事業もほとんど解決する方向にあるので、近いうちに時機をみて人事交流を実施する」

芦川 議員 農協問題と 起工式等の経費節減を

芦川議員が、①松野地区農家の農協加入②起工式等の経費節減について質問。

中川町長「富士川農協の協力を得て、松野地区が加入できるよう努力するが、芦川議員も農協の役員ですから協力していただきたい記念式、落成式の簡素化には充

分努力する。最近、冠婚葬祭が華美になってきたので、各階層の方の意見を参照に、簡素化をはかるよう、会合時間厳守の励行等と合わせて生活改善を実施したい」

審 議 議 案

- 42年度一般会計決算認定
- 国保特別会計決算認定
- 公共用地先行取得特別会計決算認定
- 助役の選任につき同意を求めることについて
- 一部事務組合の設置
- 岩淵駅改良工事施行
- 寄付物件の受領
- 町職員に関する条例改正4件
- 町営土地改良事業費の賦課徴収に関する条例
- 体育館使用条例
- 町営土地改良事業の施行（計14案件）

三つの請願

いずれも採択

町 長 に 送 付

議事に移ってからは、昭和42年度の各種会計の決算認定、地方公務員法改正にもとづく関係条例の改正等十四議案を審議、それぞれ原案どおり可決。

続いて、前議会で委員会付託になつていた三つの請願については

建設委員会審査、いずれも採択された旨、芦川建設委員長から次のとおり報告があり、町長に送付されました。

① 平清水地区の側溝整備について、44年以降の舗装工事と合わせて、側溝をL型にし、玉石張石工とする。

② 原方池野線の整備について、重要な箇所から年次的に舗装していく。

③ 富士川由比線の拡幅整備について、本年一五〇万円の予算があるので、入口の移転補償をして拡幅し、漸次、改良していく事業費については、地元で土地を提供、振興資金三〇〇万円の見通しが明るので、速やかに、できる限りを改良する。

岩淵駅改良工事 施行を議決

岩淵駅改良工事施行については「日本国有鉄道施行に係る東海道本線岩淵駅改良工事に関連する地元負担金及び非公募鉄道債券引受については、日本国有鉄道との協議により、工事費負担及び債券引受に応ずるものとする」という議案につき慎重に審議検討された結果、原案どおり可決されました。

（岩淵駅舎改築については広報ふじかわ昨年12月号3Pに詳報）

寄付物件を

受 領

〃町立小学校および幼稚園備品として左記のとおり寄付の申出があったので、これを受領するものとする〃

①寄付物件 グランドピアノ

一式

②価額

四九万八千五百円

③目的

第二小学校備品

④寄付者の住所氏名

北松野三九四 清 市郎

①寄付物件 堅型ピアノ一式

②価額

一六万円

③目的

第一幼稚園備品

④寄付者の住所氏名

岩瀬四二四 常葉雅文

高岡助役

再 選 さ る



議員となり、議長にも就任、39年町議任期中助役に選ばれ、今回まで四年間、中川町長を補佐してきました。温厚、誠実な人柄が、職員はもとより、町民間で信望を集めています。

中川町長は、昭和43年12月27日をもって任期満了となる助役の選任について、高岡文夫現助役を再選、議会の同意を求めました。議会は、満場一致で可決、高岡文夫氏は二期目の助役に就任することになりました。

同氏は、昭和九年、富士農高を卒業、農業経営、青年団活動に参加、その後、兵役を経て、三十五歳で当時の松野村議員に当選、32年、合併とともに引続き富士川町

議会の皆さんの同意を得て、助役二期目を迎えることになりましたが、過去の経験を生かし、中川町長の信任にこたえて、助役としての責務を果たすべく努力します」

独ひとりごと 言

— 広報担当者 —

— 新成人三百五十人誕生。
成人としての権利を得、社会に
対する義務を要求される。

この新成人が働き盛り、五十代
となると、二十一世紀初頭の旗手
を意味する。

わたしは今三十七才、六十七、
八になるわけで、生きていても、
老兵として社会の第一線から退か
ねばならぬ。

わたしは、そのとき、「傍観者
として、この人たちの働きを見る
だけだろうが、楽しみにしたい。



町条例および議事録は、全
文筆記して役場内議会事務局
室と町立図書館に備えてあり
ますので、ご自由にご覧くだ
さい。
なお、録音テープも事務局
で保管してあります。
町議会事務局 望月義信

松野柑橘生産組合

十周年記念大会開催

松野柑橘生産組合（佐野義策組
合長）の創立十周年記念大会が一
月十一日、南松野の永精寺で開催
されました。

同組合は、昭和三十四年十月、
柑橘生産向上のため、松野地区の
有志農家をもって組織され、以来
柑橘の栽培技術の研修改善に努力
してきており、現組合員数は一二
〇戸、同組合員の栽培面積は二〇
ヘクタール、二五万キロの生産実
績をあげています。

大会は、百十余名の出席者のも
と午後一時から開かれ、43年度のの
事業報告、決算書の審議および44
年度の事業計画、予算書の検討が
行なわれ、それぞれ満場一致で議
決しました。

同組合は、新年度の目標を次の
ように掲げています。

- ①組織力の強化（富士川町農業協
同組合への加入の方向づけ）
 - ②生産性の向上（反収の増加・品
質改善・土地改善）
 - ③流通改善（生産物の統一化）
 - ④販売品の統一化（配合肥料・農
薬の推進普及）
- 大会は続いて感謝状、表彰状贈

呈に移り、まず中川町長が、産業
振興に尽力した同組合の功績をた
たえ、組合員の努力に対して感謝
状を贈りました。

次に、佐野組合長が、林力太郎
副組合長、佐野泰次生産部長、小
林清一幹部役員・錦織勝義同・宇
佐美孝太郎同に表彰状を贈呈、清
水農業改良普及所長・真田兵作氏
に感謝状を贈りました。また同組
合は、設立当初から組合長に推さ
れて満十年、組合の発展に功労の
あつた佐野義策氏に感謝状を贈呈
しました。

佐野組合長談「松野農業協同組
合が不祥事により壊滅した以後、
みかん栽培家の有志が集り、この
組合を組織したもので、わたくし
に組合長をやるようにという組合
員の要請で就任、十年目になりま
す。この間、わたくしは、自分な
りの努力を重ねてきたつもりです
今後の大きな課題は、富士川町
農業協同組合への加入ですが、そ
こまでいくには解決されなければ
ならぬ幾多の問題があり、新年度
は、その方向づけを検討していく
考えです」

三町連合消防団出初式

寒風のなかで勇壮に挙行

県下で初の試みとして注目されていた庵原郡三町連合消防団出初式は、一月七日、正午から二時まで、蒲原中学校庭で挙行された。

式典は、三町長、三町消防団長の出迎えを受けた松永県消防防災課長、佐藤県議、柿沢清庵まとい会長はじめ多数の来賓の着席とともに開始されました。

折悪く、寒風激しく吹きまくる天候でしたが、規律正しい団員の行動、荘重なラッパの音、厳肅な表彰行事等が来賓の皆さんに深い感銘を与えていました。

三町消防団は、式典までの午前中には、それぞれ各町で、町単位の消防訓練を実施した後、富士川六台、蒲原四台、由比三台、計一三台の消防車と、三三〇名の団員（内当町・一三七名）が参加したもので、風にはためく消防団旗を先頭の分列行進をはじめ、式典後のポンプ操法、規律訓練、放水訓練を実施、三町連合消防団出初式の威力というものを発揮しました。「類例のない第一回目の大行事

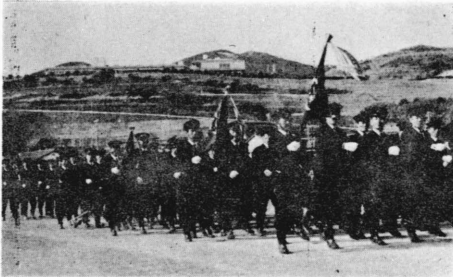


写真 当町消防団分列行進

にもかかわらず、進行がスムーズだった」と好評でしたが、主催者側としては、次回以降のため、各種の問題点を検討しています。

なお当日、式典席上、表彰された当町関係者は次のとおりです。

静岡県消防協会会長表彰（敬称略）
頭功章 団長 坪内佐吉
特別功績章 副団長 柳下寿男

特別功労章 副団長 渡辺 勉

功労章 部長 久保田敏男

功労章 分団長 佐野安彦

功労章 副分団長 佐藤方和

功労章 本部 大久保芳夫

功労章 分団長 和田幸作

功労章 副分団長 望月敏雄

功労章 花田 章

功労章 齋藤広巳

功労章 分団長 望月政行

功労章 副分団長 朝比奈英男

功労章 部長 深沢 寛

功労章 本部 佐野正豊

功労章 10年以上勤続功労章 蓮池政春

功労章 消防員 浦野哲司

功労章 消防員 佐藤 功

功労章 静岡県消防協会清庵支部長表彰

特別功労章 班長 木本繁治

功労章 清水 昇

功労章 部長 常盤英明

功労章 消防員 小林 弘

功労章 消防員 佐野静嘉

功労章 5年以上勤続功労章 若月貞二

功労章 消防員 望月秀浩

功労章 消防員 齋藤秀夫

功労章 消防員 望月公雄

功労章 消防員 勝又朗夫

功労章 消防員 植松美嗣

功労章 消防員 谷津倉松彦

功労章 消防員 市川忠良

町長が表彰する優良団員

班長 望月福吉

消防員 勝又朗夫

消防員 多芸 仁

班長 望月誠一

消防員 石川文彦

消防員 芦川昌美

消防員 望月里志

消防員 芦川清司

消防員 錦織 努

消防員 小川庄三

火の元優良家庭表彰

芦川年雄（中之郷） 齋藤太市（

岩淵）谷津倉昇（木島）望月清一

（南松野）宇佐美忠（北松野）

消防協力者表彰

大場共子（中之郷）佐野泰正（

中之郷）齋藤允啓（岩淵）海野富

男（岩淵）富田隆夫（岩淵）

本通り三丁目消火栓消防隊

退団者に対する感謝状

小林辰男・植松敏彦・角替恵一

久保田武夫・石川栄次・天野義治

小川信夫

亡父の遺志

三万円、町へ寄付

新町・渡辺さん

新町の渡辺浩章さん（農業・30歳）は、一月十三日、「亡父竹蔵の遺志です」と町へ三万円を寄付しました。

人権擁護委員三氏

法務大臣から

再 委 嘱

昨年任期満了となった当町の人権擁護委員三氏に十二月十五日付で法務大臣から再委嘱の発令があり、一月十日、静岡地方事務局で辞令の伝達式が行なわれました。

人権擁護委員（敬称略）

若月 栄 中之郷三九八七川坂

花田平作 岩淵一〇三六舟山町

天野 茂 南松野一五七 根方

委員は「人が幸福な生活を送るに必要な人間の権利」を守るため活動します。

①家主や地主からいやがらせを受けている

②老人や子どもが虐待されている

③ひどい騒音や汚れに悩まされている

④不当な差別を受けている

⑤名誉や信用を傷つけられている

⑥警察官や公務員から不当な取扱

いを受けている。

などについて、泣き寝入りしないで、すぐ委員に相談してください。

秘密は固く守られます。

なお、当町は、毎月十五日（休日のときは17日）老人福祉センターで相談所を開いています。

どんなことでも相談に応じ、解決の方法を探します。

久保田さん家族

保育園へ

絵本などを

北松野地区清水町の久保田啓司さん(運送業)一家は、松千代保育園園児皆さんへ正月のお年玉を贈りました。

久保田さん家族は、去年の暮にも同様な贈物を寄せており、今回二回目。

絵本三〇冊、玩具三〇点、衣類三〇点で、子どもの成長によって不要になった品物です。大切に使用

用されたもので、もう一度役立たせたいという希望が表現されたわけです。

同園の保母さんは、血の通った暖かい贈物に感謝しています。

園児の皆さんは、さっそく絵本オモチャを相手に遊び興じ、たいへんな喜びようです。

わたくしたちも、常日頃、物を大切に

大切にする習慣をもちたいものですし、また、自分のできる範囲で世の中の役に立つよう考えたいものです。

(南松野通信員 錦織より子)

助け合い 同情金品

八一世帯に贈る

十二月一日から始められた歳末助け合い運動に寄せられた同情金品は、現金二万余円とみかん等五八〇キロでした。寄せられた同情金品は、町内の恵まれない家庭八一世帯に贈られました。

なお、十二月十六日、民生委員婦人会、仏教婦人会など三〇人が老人ホーム、母子寮、乳児院など16の施設の当町関係者二十九人の方にも同情金品を贈って慰問激励、たいへん喜ばれました。

このほか、長い間、入院療養し

ている一五人の方と施設にも同情金品を送りましたところ、たぐさんの礼状が寄せられました。「おじさん、おばさん、おみまいありがとうございます。十二月には家に帰りますが、二十四日は園でクリスマスです。これたからきてください。」千恵よりまた第一小学校では、助け合い募金や学用品などをもって友人のいる施設を慰問しました。

平田住民課長「同情金品の内訳を次のように報告し、厚くお礼申

しあげます」

婦人会奉仕団(各戸別募金)

一三万一千一〇〇円

五八〇キロ

仏教会(町内托鉢)

八万〇〇七・七円

仏教婦人会

一万〇〇〇〇〇円

議会議員一同

七千〇〇〇円

一中・二中学生会

一万二千三八六円

富陽軒(富士)

五千〇〇〇円

浦原ライオンズクラブ

六千〇〇〇円

さくら台幼稚園

物品12点

イハラケミカル従業員有志

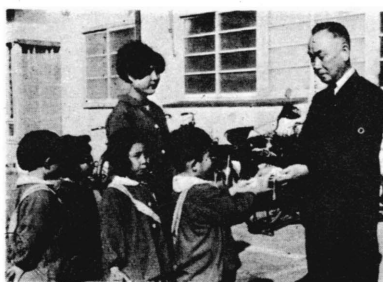
四千六二二円

渡辺クリーニング店

二千九八〇円

計

二六万〇〇九三五円



写真

中川町長へ募金を渡す
さくら台幼稚園

結婚式場

盆栽 寄贈

富士川町盆栽愛好者の会(池上恵会長)から、老人福祉センターの結婚式場にと松の盆栽(時価三万円)が寄贈されました。

式場は、枝ぶりのよい松の緑がはえて、一段と厳粛なふん開気になりました。

このセンターでの結婚式は、生活改善運動の一つとして、元費を

二月の

食生活

高野どうふ、いわゆる凍りどうふは消化もよく、たんぱく質も豊富で、この季節にはもってこいの食品です。

切干大根がおいしい季節。ぬるま湯に少しつけておき、油あげなどといっしょに煮つけたり、ベーコンや豚肉のこま切れなどといっしょにいためてたべるとたいへんおいしいものです。

少し高目のようですが、根みつばが出はじめます。おすましの中へ入れたらすると、春を感じさせます。



節約するためにあり、すべて簡素に行なっています。

このため、利用者は毎年増加し年間60組以上の新婚世帯を生んでいます。

ホウレンソウが安くなりました栄養価の高い青野菜です。

暖かい地方からのサヤエンドウも店頭に出はじめます。ビタミンの豊富な野菜です。これは、ただバターなどでいたただけでもおいしいものです。

魚類は、最近では冷凍ものがあつて、いつでも、どんな魚でも食べられますが、季節のものとして白魚をお奨めします。

また、二月は貝類のおいしいときといわれています。アオヤギ、アサリ、ハマグリ、貝柱などがやはりシユンといえるでしょう。貝類には、グリコゲンというたいせつな栄養がありますので、おおいに召しあがってください。

工業用水

富士川水管橋着工

岳南地区への送水管用

駿河工業用水道岳南送水管事業についての関係者打合せ会が昨年十二月二十六日、午前九時に町老人福祉センターで開催されました。関係出席者五十余名。

これは、県が、静岡県地区および岳南地区の工業用水を将来にわたって確保するため推進している「東駿河湾工業用水道事業」の一環として、今年一月着工する岳南導水管路・富士川水管橋工事で、岳南地帯への工業用水を送るために専用の鉄橋を富士川へ架橋し、その上に鋼管二本を通す工事をいい、これに伴う問題点につき打ち合わせしたものです。

東駿河湾工業用水道が完成しますと、日本軽金属(株)蒲原工場の発電排水を当町内新幹線富士川付近の浄水場に取水し、さらに大楽窪山頂に引き揚げ、そこから静岡県地区と岳南地区の工業地帯へ送水することになります。

水管橋は、新幹線と東海道本線の間に、対岸松岡に対して架橋され、スパン一〇四メートルが一〇

連、全長一〇四〇メートル。橋脚は九基、兩岸の橋台二本。この橋上に直径二・二〇メートルという巨大なパイプが二本並列されます

工事発注者は静岡県企業局、請負業者は、下部工が大豊建設株式会社、上部工が日本鋼管株式会社。工期は昭和43年12月10日から昭和45年3月4日となっています。

下部工の着工は昭和44年1月、今年いっぱいまで完工しますが、その後の撤去工は45年2月までです。上部工はパイプ製作が六割を占め、これは日本鋼管の工場で作られ、架設工は44年7月から45年3月まで。工事費一四億円。

このため、今年一月には、大豊建設株式会社の仮設建物(現場事務所、職員宿舍、車庫、労務宿舍、雑建物)9棟が現場付近に施設され、二月にはいりますと二百名の作業員が来町します。

中川町長は、同席上、次のようにあいさつしました。

「建設が予定されている富士川火力発電所へは決して送水しない

ということを条件に、協力することになりました。

大工事ではあり、この工事期間中問題が生じないよう、とくにわたくしは町民を守るという立場上、無事故完成を祈りたいし、また、そのため努力します。

関係機関のお力添えをお願いします」

清水税務署からの

お知らせ

清水税務署から、皆さんに、次の三点について、お知らせ、お願いしています。

ニセ税務署員に

ご注意

最近、税務署員らしく見せかけて、講習会への出席や出版物の購読を勧め、代金を請求するといった事件が、東海地方各地で起っています。

こんなときにはご注意

- ①税務署に似た名まえを使ったり、税務職員と思わせ、パンフレットなどを売りつけるとき
- ②会社や商店へはいってきて、いきなり帳簿を見て「こんな帳簿で

は税金が高くなるから安くなる方法を教えよう」といって、税務署に關係のあるような団体名をもち出して入会を勧め、入会金を請求するとき

③「税務署の主催で講習会を開くから参加してほしい」といって参加料を請求するとき(税務署主催の講習会では参加料は無料)

④注文もしない雑誌やパンフレットをかってに送ってきたとき(後日、半年または一年分の代金といって、数千円を請求にきます。)



被害を受けないようにするには①ことばづかに注意し、不審な点があるときは、身分証明書を確認するか、税務署へ電話で連絡してください。

②印刷物を買う意志や会に入会する意志がないときは、はっきりとわってください。

納税証明書の交付

二月末までに請求を

税務署は、二月中旬以降、とく

に三月中は、所得税確定申告事務の繁忙期にあたります。

この期間は、証明請求をされましても、当日交付ができないで迷惑をおかけする場合があります。納税証明書を請求される方は、できるだけ二月末までに、または四月以降に請求されるよう、ご協力をお願いします。

申告所得税43年分の証明書を必要の方は、確定申告書の控えと領収証書をご持参ください。

税金の還付手続きは

なるべく二月中旬に

〇一月から受付

確定申告によって、納め過ぎになった税金の還付を受けようとする方は、なるべく二月中旬までに申告書をお出しくください。

〇早い順に還付

早く申告されまますと税金の還付も早くなります。

三月になると事務が混雑しますので、還付できるのが四月以降になる場合もあります。

〇注意事項

- ・住所・氏名は明確に
- ・源泉徴収票などの添付書類は
- ・支払いを受けるに便利な郵便
- ・支払いを受けるに便利な郵便
- ・同名などお忘れなく

新成人者三五〇人

一小体育館で挙式

今年の当町成人式（18回目）は一月十五日、午前九時、町立第一小学校体育館で、町教育委員会主催により行なわれました。

式終了後、オリンピック選手の体操演技が11時から12時まで行なわれ、新しい門出を記念するにふさわしい青春の躍動を見せました（選手名は前月12月号13Pに掲載）

新成人者は、富士川地区二四一人（男一二七・女一一四）松野地区一〇九人（男六三・女四六）計三五〇人で昭和二十三年一月十六

日から昭和二十四年一月十五日までに生まれた人。

全国的には、約二四三万人（男一二三万・女一二〇万）と推定され、昨年より七万人も多く、いわゆるベビーブーム時代に出生した人々が成年に達していることを示しています。

成人式の意義

草花の種をまくと芽を出し、葉をつけ、茎を伸ばし、いつかはつば

みをつけ、開花するように、人の一生も幾つかが段階に分けることができます。

少年が肉体的にも、精神的にも成長し、一人前の社会人となることを成人といえます。

法律的にいえば、成人とは、人が完全な行為能力者となる年齢をいいます。

民法第三条は「満二十年をもって成年とする」としているので、満二〇歳に達した人は成年者であり、これに達しない人は未成年者なのです。ただし、未成年者でも婚姻すれば、民法第七五三条により成年に達したものとみなされます。

成人式は、結婚、選挙と同様、人生の新しい段階を画するとき、決意をかため、それを記念する、いわゆる人類学上の通過儀礼の一

つで、わが国だけでなく、世界の各民族の間にもみられます。

日本についてみれば、昔の武士社会での「元服」とよばれる儀式が今日の成人式に相当します。このような、少年から成人への成熟を示す儀式は、武士社会だけで行なわれていたわけではなく、元来は、地上の村々でも広く行なわれていました。

庶民の場合、一三歳から一五歳ぐらいで若者組に加入し、これによって結婚の資格を獲得し、地域社会の成人としての資格を認められました。このとき、名まえを改めるとか、近親者からお祝品をもらうとかしたものです。しかし、他方、一人前としての心得を学び、その社会での習慣、秩序を守る義務を負わされました。そして、ときには肉体的にも精神的にも成年として、種々の試験を受けなければなりません。とくに、武士は、元服後は一人前の戦士として、雄々しく戦場におもむき、初陣の手柄を競ったものです。

人の自然的精神能力は、一四、五才から一人前になりますが、民法第三条が成人を二〇年としたのは、近代社会における財産取引が盛んな状態にかながみ、人の成熟期を自然的精神能力により引き上げることをもって妥当と考えたからでしょう。

各国の成人年齢

わが国の成人年齢は、二〇歳ですが、国によって次のように異なっています。

- 18歳 インド・トルコ・ソヴィエト・ハンガリー
- 20歳 スイス・中国・朝鮮
- 21歳 アメリカ・メキシコ・ベルギー・ドイツ・フランス・イタリア・ギリシャ・スペイン・ノルウェー・デンマーク・ブラジル・連合王国・オーストラリア・オランダ・南アフリカ共和国
- 22歳 アルゼンチン
- 25歳 チリ

編集覚書

▼お詫言

12月号13Pの二段「新成人は二百六十二人」とあるのは三百六十二人の誤りでした。

▼五人の広報通信員が本格的に活躍する年でもある。良い話題を皆さんに提供したい。

▼今年一年、人の流れ欄の下に、わたくしたちの心のふるさと「富士川夜話」連載を企画、氏車十に執筆依頼しました。

▼良い話題がありましたらお届けください。 総務課 斎藤 博



43・11・20 / 12・19

人の流れ

(敬称略)

祝 結 婚

区名	新 郎	新 婦	旧 姓
四十九	吉田保己	育子宇田津	
上町	渡辺貴英	敏恵 渡辺	
室野	谷津倉由宗	恵美子 佐野	
東二	清 冬樹	勝代 山田	
舟山	大久保隆由	初子 阿部	
四十九	大 榎 功	和江 黒田	
木島	斎藤 昭	益代 鈴木	
幸町	浦田善弘	美智子 佐塚	
川坂	小永井捷	智枝子 竹田	
川坂	小笠原宏幸	斐子 小林	
東一	花田光好	容子 丸山	
上町	望月孝宣	京子 志田	
本一	斎藤久治	きく枝 望月	
宮町	若松良治	晴美 佐野	
南町	北村紀道	シメ子 藤原	
八幡	深沢克己	真佐子 佐藤	
大北	芦沢貞治	実也 望月	
大北	清 要	千枝子 佐野	
徳下	望月 陽	信子 加藤	

祝 誕 生

区名	氏 名	保護者	続柄
旭町	鈴木千佳子	正志(長女)	
相生	天野美和子	輝雄(二女)	
四十九	松原 久	伝二(二男)	
四十九	木内教之	霜一郎(長男)	
旭町	清水基昭	康吉(二男)	

折 冥 福

区名	氏 名	年令
四十九	若月きょう	七八
徳下	石川 明	四七
南町	小林 花	六三
八幡	望月松一	六七

区名	氏 名	転 出
舟山	村松紀代子	転出先
木島	角替篤子	蒲原町
舟山	青木敬子	蒲原町
上町	植松敏子	蒲原町
幸町	二木加代子	富士市
小池	佐野此才江	東京都
富士見	小林テル子	富士市
清水	渡辺千賀子	富士市

富士川夜話

黄 金

氏 車 十

枯れた細竹の中から黄金が出た。蔵多(この名から、一生貧乏だった親父が、せめて吾が子には富貴な暮らしを祈願して名付けた、せつない親心というものがある。それよ)は、こうした幸運が、自分について訪れるだろうというのをひそかに予感していた。発見したときは、「やはり」と思った。おかしなものだが、誰にでも一、二このような経験はあるものだ。女房、子どもにも言わなかった。もちろん、親戚など羨望をえだ。どうしてここに在るのか、自分が受けて気持のいいものかどうか、それとなく人にあたってみた。

「昔、戦国の時代、大名たちのある者が、細竹に純金を流し込み、軍資金の貯えとしたということだが、もしこの近辺に在るとすれば、甲州武田家のものではあるか」

二百年も経っている江戸時代だ。蔵多はこの天恵を不安なく自分の所有物にできた。

一束になっており、長さ三尺、二十三本あり、十貫目ほどの重さだった。それは沢道から少し離れた灌木林の中にあった。鳥の密猟中に露出した竹に足をとられて気が

付いたのである。

どこで流通貨幣に替えるか、持てる者の悩みが新たに生まれたが、蔵多は楽しみながらあれこれ詮議した。ここ岩洞の宿場はもちろん隣の蒲原宿あたりで交換するのは避けねばならぬ。沼津、三島の宿場だ。

それとも一つ、蔵多は、持ちつけぬ宝がもとで身を減すという坊主の説法を聞いていたので、黄金の使途についても慎重に考えた。黄金はまさに怪物だ。せひとも超有力な味方に編入させる必要がある。



ろうというものだ。

計画はこうだ。転住の許可を得ていったん沼津か三島へ出る。二年ほど小商いしつつ商法を学び、ふたたび帰生し、富士川河岸で店を張る。

蔵多は、長年、甲州との舟運で栄える岩洞宿の店々に限らない羨望を抱いてきた。とくに、軒並に林立する土蔵の白い壁に対する憧憬は、富の象徴としてばかりでなく、巨大な自分を表現させるために必要欠くべからざるものに結び

つけていた。

名付けた父親の執念からか、蔵多は、やがて、河岸に、甲州との交易稼業の店を出し、朝日に輝やく真新しい土蔵を持った。

女房はこの間、激しく恋、生活模様には不安を感じたが、裕になるのだから文句なく、しかも、巨人化する連れ合いに畏怖を覚え、言葉つきもまるで丁寧になった。長男も成人し、一人並に店に立つた。

ある朝、蔵多は寝床で、ふと、この満足すべき成果が自分の能力のほか、一番根元的には、甚しい偶然性から出発していることがトゲとなって心に突き刺さっているのを感じた。「人間って奴は」と嘆息せざるを得ない。

人が「こりゃあ御殿」だと仰天した土蔵は、蔵多にとって瞑想の場所でもある。

「出発点はアレであっても、それは人が生まれたときすでに運命づけられていた財産の有無と同じことだ……、だめだ、こんな理由では、わしの胸の中に巣喰ったものを振り払えそうもない……、……、わしには腕があったのだ。ただ機会を恵まれたのだ。そうだ、どうだ、これでは。わしが今後稼ぎ出す金のなかからあの竹金と同じ価値を、わしのような男たちに回そう」